

“どこにもなかった”箱づくりに 挑戦

「トライフィーダ」見学会を実施

(株)日本紙工機械グループ

「出荷前の慌ただしいスケジュールとはなつたが、欧米で人気が沸騰しているシステムをみていただくことができてよかった」

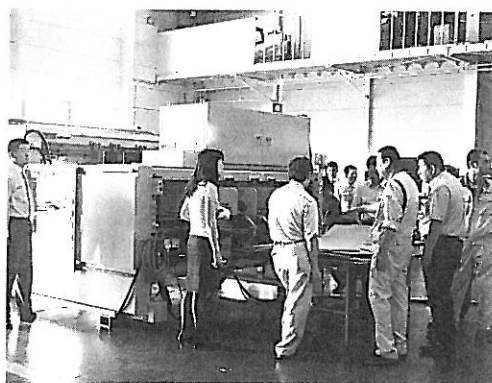
日本紙工機械グループ(茨城県北相馬郡、☎0297-68-7111)は8月9日と11日の2日間、本社工場で新開発の段ボール用給紙・貼合装置「トライフィーダ」の見学会を開催した。7月に開催された段ボールセミナー(全段連主催)で行ったプレゼンテーションで注目を集め、8月下旬に米国の段ボールメーカーへの出荷を控えた装置でデモを行った。

トライフィーダは、上下2段で各2枚のブランクを貼り合せることができる装置。トライフィーダ一体型の段ボールグルアとして供給できるほか、一つのユニットとして既存のグルアに取付けも可能。機械サイズは1450型から3200型まで対応し、特注のオーダーにも応じる。

同社では上下各1枚のブランク貼り合わせができる「タンデムフィーダ」を数年前に開発。陳列効果に優れた輸送箱として、欧米の大手スーパーマーケット向けに採用が相次いだ。この発展形として開発したのがトライフィーダで、2009年11月に米国の段ボールメーカーに第1号機を納入した。

トライフィーダとグルアを組み合わせることで、これまでの製函機では不可能だった次のような形状の箱が生産できる。

1) 3ピースボックス：強度が必要な部分に補強用パーツを貼り合せられる。より少ない材質で強度を確保した箱が生産できる。



(上)実演を見学する来場者 (下)こんな大判のブランクにも対応



2) 仕切付きワインボックス：飲料などの仕切を外箱に貼り合せて製函できる。仕切付きの箱はそのまま自動充填が可能。

3) 陳列用ツインピースボックス (Shelf Ready Package)：内箱・外箱一体型により包装材料の削減とコストダウンが可能。外装部分を残すことで、ディスプレイとして使用できる。

トライフィーダは8月以降も欧州の段ボール企業で導入が決まっている。

「出荷前の見学会もこれからはほぼ毎月開催できそう」と、同社では国内向けの提案にも手ごたえを感じている。